ませ　ぐち　い　せき

# 柵口遺跡

平成９年12月

長野県飯田市教育委員会

# 例　　言

1．本報告書は地方特定道路整備事業島垣外・宮洞線道路改良事業に伴い実施された，飯田市伊賀良三日市場所在の埋蔵文化財包蔵地柵口遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2．発掘調査は飯田市建設部からの委託を受け，飯田市教育委員会が実施した。
3．調査は平成８年度に現地調査を，９年度整理作業及び報告書作成作業を行った。
4．発掘調査及び整理作業は一貫して遺跡名に略号ＭＳＧを用いた。
5．発掘調査位置は国土基本図の区画，ＬＣ－84に位置し（社団法人日本測量協会　1969　「国土基本図図式　同適用規定」参照），グリッド設定は株式会社ジャステックに委託した。
6．本書は吉川金利が執筆・編集を行い，小林正春が総括した。
7．本書に掲載した遺構図の中に記した数字は，それぞれの深さ（cm）を表している。
8．本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し，飯田市考古資料館で保管している。

# Ⅰ　調査の経過

柵口遺跡の所在する飯田市伊賀良地区は国道153 号バイパス（通称アップルロード）・運動公園通りなど当市の主要道路が開通して以来，開発が急激に進み，その沿線の市道の改良が増してきた。

島垣外・宮洞線道路改良事業もその一つであり，事業が埋蔵文化財包蔵地内で行われるため，事業主体者である飯田市建設部土木課と長野県教育委員会，飯田市教育委員会の三者に於いて埋蔵文化財保護協議を行った結果，当該遺跡の状況が不明であるため，試掘調査を行い遺構・遺物が確認された場合，発掘調査を行って記録保存をするという結論が出た。

上記の保護協議の結果に基づき，平成９年１月20日に対象地区の一部に於いてトレンチによる試掘調査を行った結果，竪穴住居址・ピットと思われる遺構が確認されたため，その箇所を拡張して発掘調査を行う事とした。２月７日より重機にて表土剥ぎを行い，10日より作業員による精査を開始した。また，建造物・耕作物などの処理ができていない箇所においては３月12日より重機でトレンチを設定し，遺構・遺物の有無を確認した。計４本のトレンチ調査を行い，遺構・遺物が出土し拡張して調査したのは１箇所であった。また，３月17～21日に写真及び図面などの諸記録の基本整理を行い，平成９年５月20日より出土遺物の整理・図面整理等を開始し，本報告書の刊行となった。

# Ⅱ　調査組織

調査団

調査担当者　佐々木嘉和　　吉川　金利

調査員　吉川　豊　　山下　誠一　　馬場　保之　　下平　博行　　伊藤　尚志　　福澤　好晃作業員　鳴海　紀彦　　細田　七郎　　山田　康夫　　吉川　和夫

事務局

飯田市教育委員会博物館課

| | |
|---|---|
| 矢沢　与平（博物館課長～９．３） | 小畑伊之助（博物館課長９．４～） |
| 小林　正春（埋蔵文化財係長） | 牧内　　功（庶務係） |
| 吉川　　豊（埋蔵文化財係） | 山下　誠一（埋蔵文化財係） |
| 馬場　保之（　　〃　　） | 吉川　金利（　　〃　　） |
| 福澤　好晃（　　〃　　） | 伊藤　尚志（　　〃　　） |
| 下平　博行（　　〃　　） | |

# Ⅲ　調査結果

今次調査に於いて確認された遺構は下記のとおりである。なお，遺構・遺物が検出されなかったトレンチについては詳細は省略し，位置のみ表示する（表紙調査位置図参照）。

・竪穴住居址（弥生時代後期）１軒

・ピット　　（中世）

## １．竪穴住居址

１号住居址（挿図２）

<table>
<tr><td colspan="2">検出位置</td><td>ＡＨ－11</td><td colspan="2">覆土</td><td colspan="2">削平されてなし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重複</td><td>切る</td><td></td><td colspan="2">床面</td><td colspan="2">たたき状で良好</td></tr>
<tr><td>切られる</td><td>中世ピット</td><td rowspan="7">住居内施設</td><td>主柱穴</td><td colspan="2">Ｐ１～３</td></tr>
<tr><td rowspan="5">規模・形状</td><td>プラン</td><td>隅丸方形</td><td>貯蔵穴</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>規模m</td><td>(2.95)×(2.95)</td><td>入口</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>主軸</td><td>N44° W</td><td rowspan="3">炉・竈</td><td>形状</td><td>新：土器埋設炉　旧：炉縁石を有する地床炉</td></tr>
<tr><td>壁高cm</td><td>0</td><td>規模cm</td><td>新：(45)×45　旧：50×(40)</td></tr>
<tr><td>状態</td><td>削平されてなし</td><td>特記事項</td><td>新旧あり</td></tr>
<tr><td colspan="7">出土遺物（挿図２）<br>甕（土器埋設炉に使用，二次焼成受け文様・調整等不明）</td></tr>
<tr><td colspan="7">特記事項<br>炉址新旧あるが，増築・改築の痕跡は見られない。</td></tr>
<tr><td>時期</td><td colspan="2">弥生時代後期</td><td>根拠</td><td colspan="3">出土土器</td></tr>
</table>

## ２．ピット

調査区北西側で検出した。掘立柱建物址の柱穴の可能性が高いが，建物単位として把握できたものはない。その多くが覆土の状況から中世に位置付けられる。

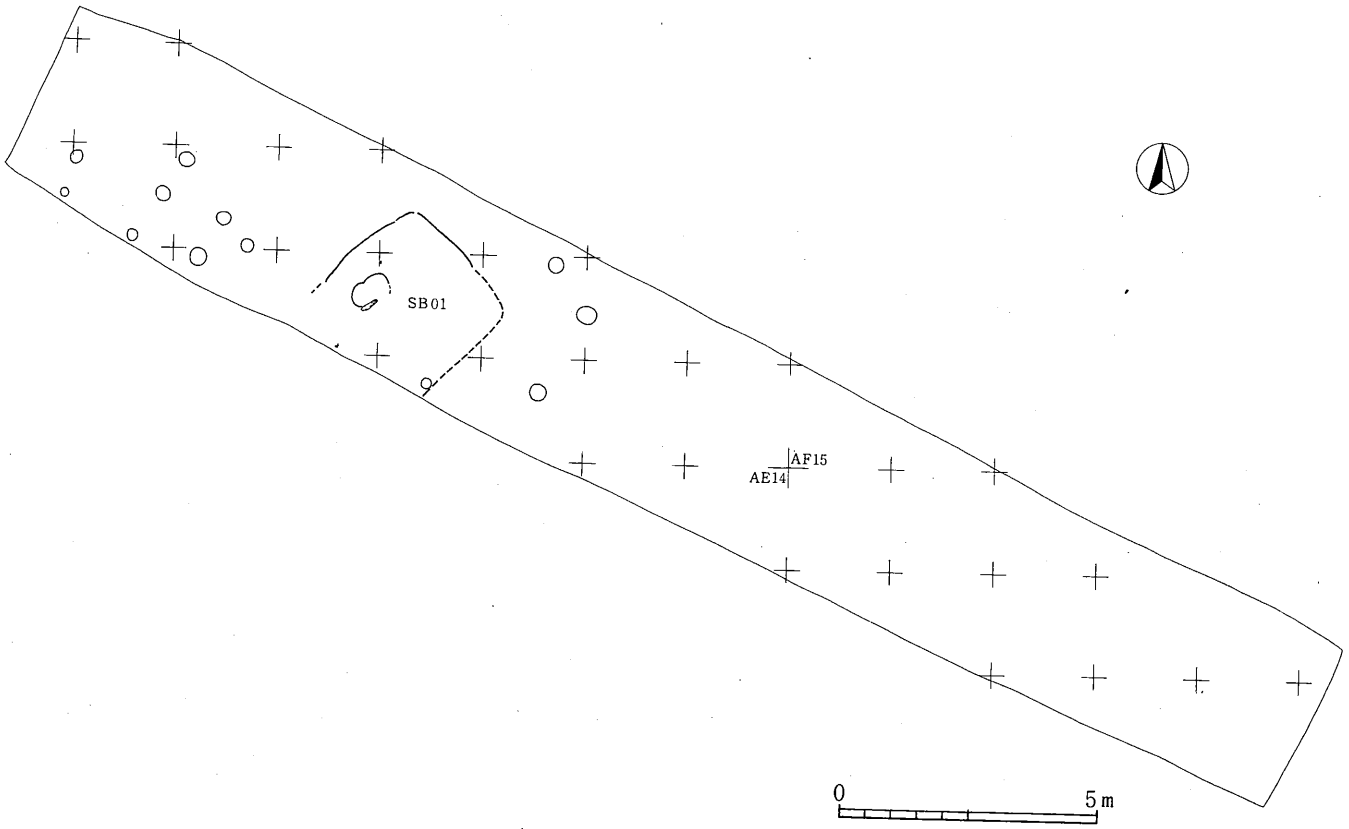
# Ⅳ まとめ

調査した面積・遺構等が少なく遺跡の状況が十分に把握できたとはいえないが，気付いた点を掲げ，まとめとしたい。

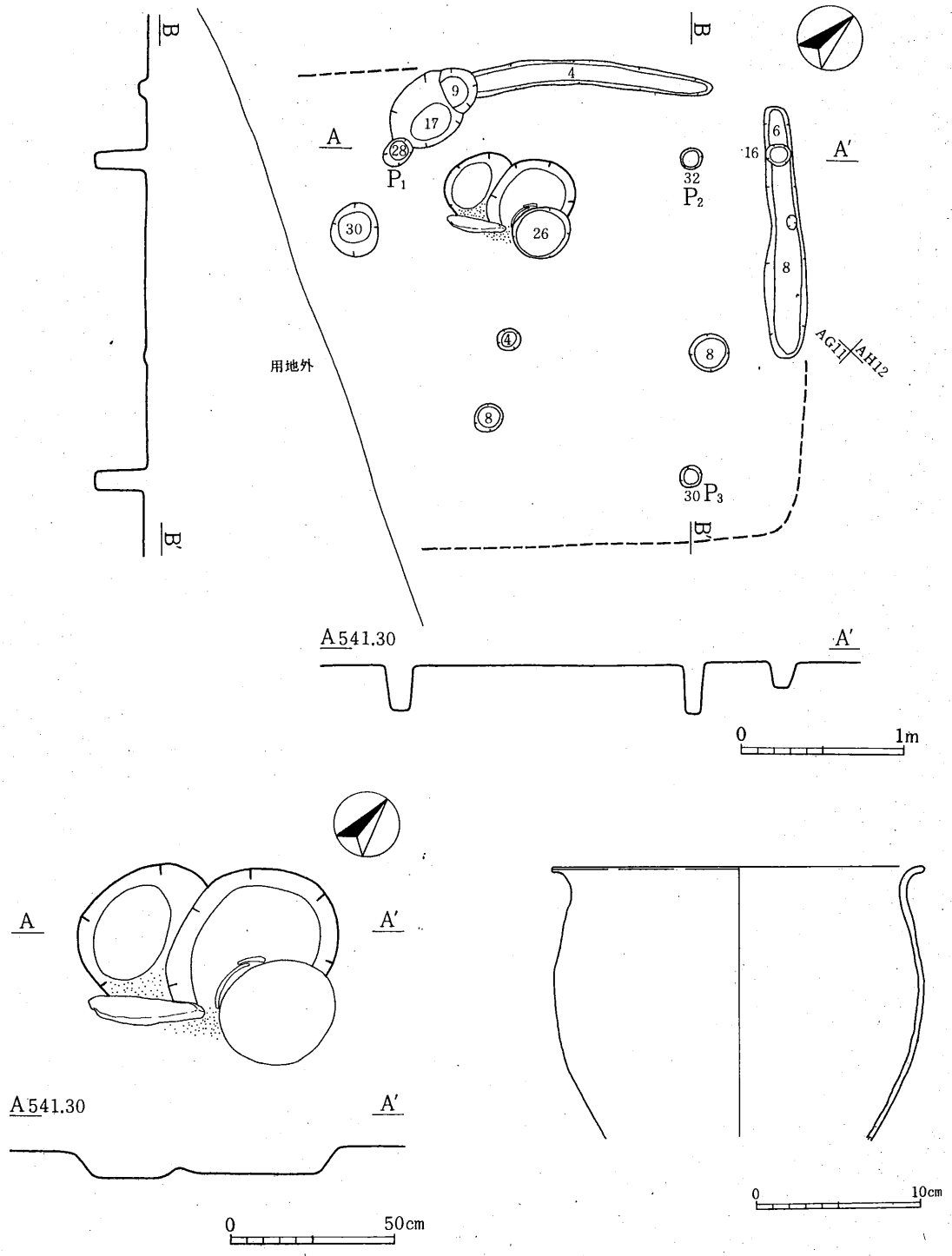
弥生時代後期の竪穴住居址が１軒確認された。該期の集落は当地方では普遍的に見られる。本遺跡に於いては詳細は不明であるが，トレンチ調査で該期の遺構が検出されなかったという点から，小規模な集落であったと思われる。検出された住居址の炉址は新旧あり，旧炉は地床炉で新炉は土器埋設炉であった。当地方では該期の炉址の形態としては他に石組炉がある。これらの形態の違いは如何なる意図があるのか，なぜ作り替えたのか，現状では不明であるが他の遺跡等と比較するなど今後究明していく必要があると思われる。

当該地はその小字名から「柵口遺跡」とされているが，中世期の「三日市場城址」であるともされている。これらは密接な関係にあり，『ませぐち』は所謂「馬柵口」で，馬小屋の横木または牧場の柵の横棒の意であり，つまりは馬関係の施設を示すと考えられる。故に今次調査で確認した中世期と思われるピットは馬関係の施設の可能性がある。前述したように建物単位では把握できなかったが注目される点である。

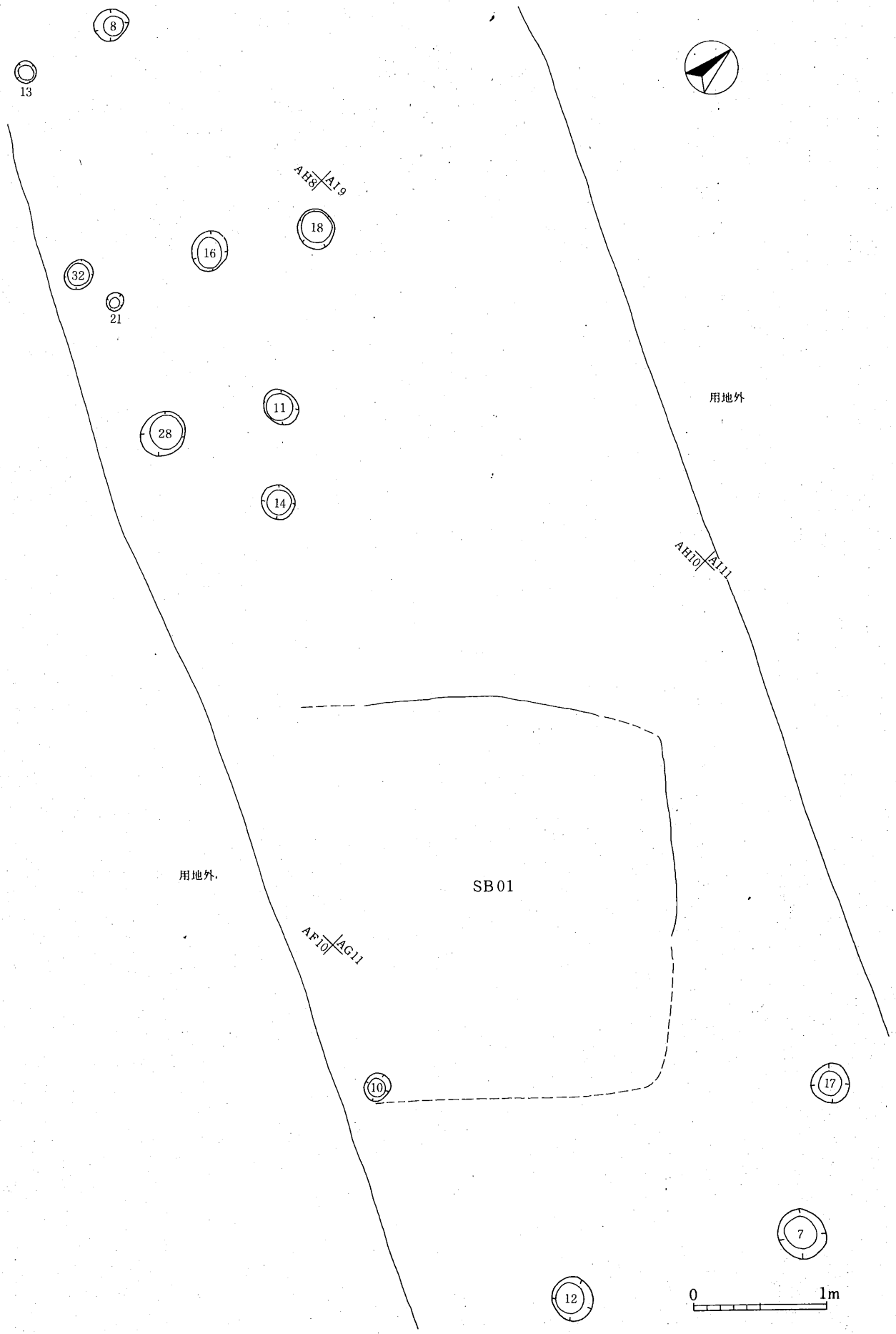
以上のように今後の問題点や確認された事を述べてきたが，これらを解決するべく今後の周辺の開発には十分留意し，本遺跡の性格を明らかにしていきたい。




**挿図１　遺　構　分　布　図**



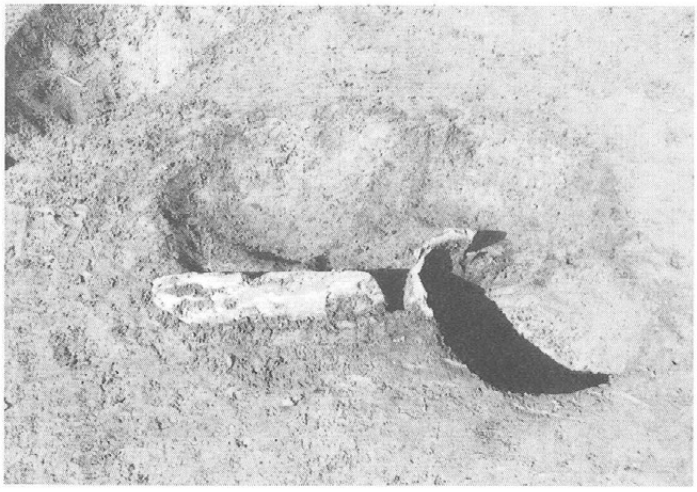

**挿図 2　1号住居址及び出土土器**


8
13
AH8
AI9
18
16
32
21
11
28
14
用地外
AHI0
AJ11
用地外
SB01
AF10
AG11
10
17
7
12
0
1m

**挿図3　ピット**

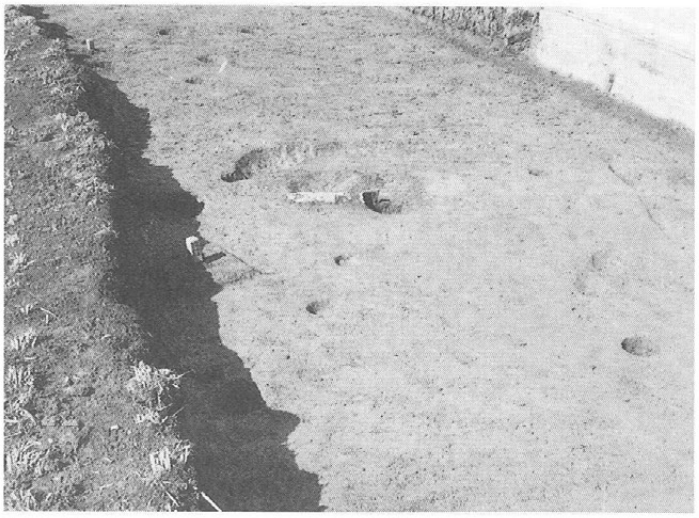
# 写　真　図　版

柵口遺跡調査前近景



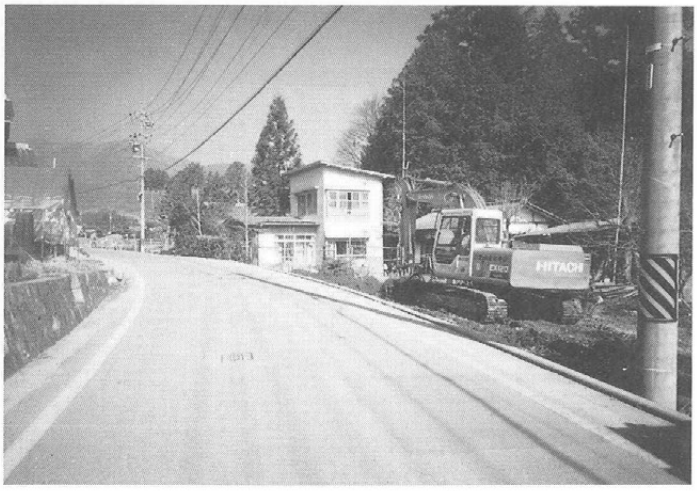
1号住居址炉址

調査スナップ及び委託測量スナップ



1号住居址

全　　景




重機作業　スナップ

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ませぐちいせき |
| 書名 | 柵口遺跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 吉川金利 |
| 編集機関 | 長野県飯田市教育委員会 |
| 所在地 | 〒395　長野県飯田市上郷飯沼3135　☎ 0265 (53) 4545 |
| 発行年月日 | 西暦1997年　12月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東緯<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 柵口遺跡（ませぐちいせき） | 飯田市三日市場（いいだしみっかいちば）<br>1067－1他 | 2053 | | 35<br>29<br>17 | 137<br>48<br>1 | 平成9年1月20日<br>から<br>平成9年3月12日 | 130 | 市道改良 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 柵口遺跡 | 集落址 | 弥生時代<br>中世 | 竪穴住居址<br>ピット | 弥生甕 | ◦中世期「三日市場城址」の馬関係の建物柱穴か？ |


柵口遺跡（ませぐちいせき）

―― 緊急発掘調査報告書 ――

平成9年12月発行

発行　長野県飯田市教育委員会

印刷　㈱新葉社